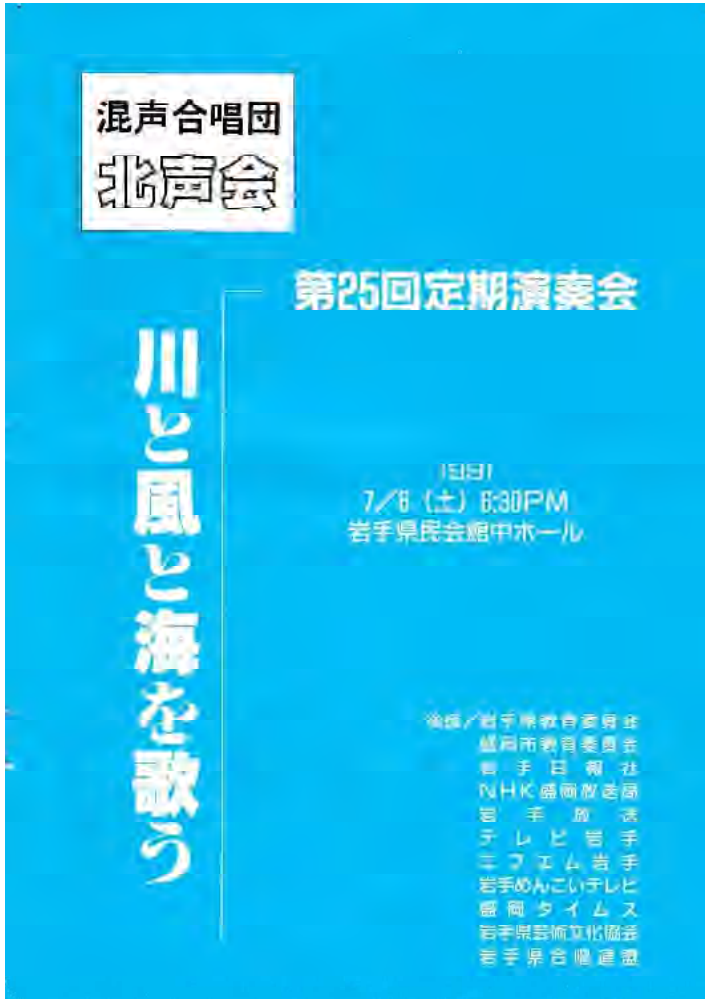


第25回定期演奏会 (平成3年1991年7月6日(土)18:30～) 岩手県民会館中ホール  
川と風と海を歌う



<プログラム>

- |  |     |     |     |
|--|-----|-----|-----|
|  | 指揮  | 牛 越 | 恂   |
|  | ピアノ | 河 野 | 直 子 |
1. 千葉了道作品より  
あじさい 宮静枝 詩  
海のひぐらし 宮静枝 詩
  2. 青島広志編曲作品集より  
真夜中のギター 吉岡治 詞/河村利夫 曲  
風をはこぶもの 山上路夫 詞/菅原進 曲  
ブルーシャトール 橋本淳 詞/井上忠男 曲  
虹と雪のバラード 河邨文一郎 詞/村井邦彦 曲
  3. もりおかの歌から  
もりおか はしの名づくし 三浦たくじ 詞  
藤沢昭子 曲  
中津川アルバム 石田紘子 詞/佐藤洗 曲  
そよ風そんぐ 千田次男 詞/太田代政男 曲  
もりおか 100年賛歌 芦田茂 詞  
小池清克 曲
  4. 賛美歌から  
5 1 7 番 4 9 6 番  
3 5 5 番 2 9 8 番
  5. 混声合唱組曲「海のディヴェルトメント」  
川崎洋 詞/新実徳英 曲  
海へ  
さかな  
子供っぽい幻想  
小さな創世記  
海の夜明け  
なみ

<指揮者・ピアニスト・役員>

常任指揮者	牛 越	恂
ピアノ伴奏者	河 野	直 子
委員長	尾 形	利 子
副委員長	寒 河 江	伶 子
	金 遠	豊 太 郎
会計	田 中	喜 美 栄
パートリーダー	Sop. 三 上	育 裕 子
	Alt. 佐 々 木	壮 一
	Ten. 佐 々 木	藤 一 勲
	Bas. 佐 藤	
実行委員長		

<団員名簿・出演者名簿>

< Sop. >									
阿 部	隆 代	遠 藤	喜 美 栄	美 和 子	美 和 子	美 和 子	美 和 子	美 和 子	美 和 子
太 田	和 フ	金 駒	妙 美	美 育	美 育	美 育	美 育	美 育	美 育
菅 野	千 枝	田 藤	美 明	美 明	美 明	美 明	美 明	美 明	美 明
高 舘	利 昭	田 荒	美 里	美 里	美 里	美 里	美 里	美 里	美 里
赤 藤	昭 静	佐 々 木	美 子	美 子	美 子	美 子	美 子	美 子	美 子
中 村									
< Alt. >									
内 田	喜 代	寒 河 江	伶 子	子 子	子 子	子 子	子 子	子 子	子 子
佐 々 木	和 子	関 井	ト 陽	ト 陽	ト 陽	ト 陽	ト 陽	ト 陽	ト 陽
齊 藤	る 子	藤 村	光 喜	光 喜	光 喜	光 喜	光 喜	光 喜	光 喜
三 久	裕 智	大 川	富 公	富 公	富 公	富 公	富 公	富 公	富 公
鎌 澤	光 子	干 泥							
< Ten. >									
尾 形	利 夫	佐 々 木	壮 一	攻 弘					
藤 村	雄 治	松 坂	直 直						
吉 田	直 美	高 間							
< Bas. >									
佐 藤	良	洗 平	照 井	隆 一					
松 齋	藤 宏	佐 藤	隆 一						

<主な活動> 平成3年 1991年

9/23(月) ねんりんピック岩手大会エキシビジョン (産業文化センター) 参加



## ごあいさつ

混声合唱団北声会 委員長 尾形 利夫

本日は、北声会25回定期演奏会にお出かけいただきまして、深く感謝申し上げます。

今夜は、組曲「海のディベルテメント」と千葉了道作品、青島広志「曲がりかど」「角を曲がった」シリーズ、もりおかの歌、から「川と風と海を歌う」をテーマにプログラムを組み立てました。

昨年の定期演奏会いらい、あと数人の男声と、若さが欲しいと言いながらの一年でした。

今回は盛岡大学合唱団からご協力をいただきましたが、30名という少メンバーで、曲によっては十分な表現ができずに悪戦苦闘いたしております。

どうぞ今後ともよろしくご指導、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

# 演奏会にあたって

常任指揮者 牛 越 恂

本日は、第25回定期演奏会に、ご来会いただき心から感謝申し上げます。

北声会の演奏会につきましては、千葉了道先生亡き後、不肖私が指揮の任に当たってさいりましたが、先生が北声会に遺してくださった音楽的財産を食い潰しているような状態で、何ら進歩がなく、本当に申し訳なく感じ入っております。



昨年の夏、先生の生れ故郷の小友町で、追悼の演奏会を千葉了昭先生のお世話で開催させていただき、先生の魂を、町民の方々に伝えることができ、更に先生の遺作となった町民歌を、会場の方々と一緒に、声高らかに歌うことができましたのは、まさに感動の一語につきました。

このように、自分の音楽生活に、感動と励ましを与えてくれる先生のお心に報いようと練習、演奏に頑張るではありますが、何せ力量不足のため、いつも跪いてばかりおります指揮者です。どうぞ皆様方の、更なるご指導、ご鞭撻を、お願い申し上げます。